

令和 5 年度 訪問看護ステーション連絡協議会 九州ブロック会議

開催日；R5 年 11 月 25 日(土) 15 時～16 時半

開催場所；宮崎県医師会館 2 階研修室

参加者；福岡県 2 名、佐賀県 2 名、大分県 1 名、鹿児島県 2 名、宮崎県 8 名、
※長崎県と沖縄県は欠席 熊本県からは坂田理事と遠藤 2 名参加

意見交換(1)訪問看護ステーション連絡協議会の運営について

① 現状について

○鹿児島県⇒総ステーション数は 207 ケ所。ここ 2～3 年で 30 か所程ステーションが増加。その半数が連絡協議会に入会。

○大分県⇒総ステーション数は 197 ケ所で、連絡協議会への入会は 135 ケ所。入会率は 68%程度

○佐賀県⇒連絡協議会への入会率は 64%程度、連絡協議会会員専用の HP を立ち上げ、HP のみで入手ができる情報として研修の案内を行い会員数の増加に繋がる。

○熊本県⇒ステーション数 H23 年度は 128 ケ所だったが、R4 年度は 278 ケ所となり 10 年で倍増。協議会への入会率は 80%を超える時もあったが、コロナ禍後は 74%

○宮崎県⇒連絡協議会に入会は 96 ケ所

② 訪問看護総合相談支援センターの設置について

設置 ⇒沖縄県、熊本県 (それぞれ看護協会に設置)

未設置⇒鹿児島県、大分県、福岡県、宮崎県

佐賀県は県の委託で看護協会に「佐賀県訪問看護サポートセンター」設置

③管理者の育成プログラムの有無について

○大分県⇒大分県の委託を受け、大分県看護協会で行われている。

○熊本県⇒人材育成や質の向上、管理者育成に関する研修やスキルアップ研修を開催。

○宮崎県⇒管理者育成プログラムはないが、管理者向け研修を年一回開催されている。看護協会が開催する訪問看護管理者研修のベーシックコースの受講を勧めている。

④人材確保の工夫(方法)について

○鹿児島県⇒潜在看護師や 60 歳以上の看護師を活用。人材不足が今後もっと深刻になる中で、危機感を持って潜在看護師を生まない風土づくりに取り組む必要がある。

○大分県⇒今年度から連絡協議会が法人化して県の事業(就業ガイダンス)を初めて直接受託することになった。

○福岡県⇒県内 4 ブロック別に研修会を行い人材確保のテーマで研修会開催。又職員確保の取り組みの一環として、職員が働きやすい環境づくりのため暴力・ハラスメント対策に係るリーフレットを作成し、会員事業所に配布した。

○**熊本県**⇒ナースセンターや訪問看護総合支援センターと協力し、潜在看護師やプラチナナース等を対象に技術研修等を開催し、ステーションへの就業や転職を支援。

○**宮崎県**⇒宮崎県看護協会に新人看護師を訪問看護師として育成するプログラムがある。人材確保にはステーション全体の給与を上げていく必要がある。

⑤訪問看護ステーション事業所の増加に伴うサービスの質の向上への工夫について

○**鹿児島県**⇒管理運営委員会・広報委員会・教育委員会の3つ設置。管理運営委員会では全国訪問看護協議会から講師を招きトリプル改定についてなど講演をしてもらい最新の情報を得るようにしている。非会員にも情報を送り入会促進に努めている。教育委員会では年に1回看護研究発表をしている。看護研究発表を避けて連絡協議会への入会を拒むところもあるが、看護行為の質の担保の為に必要だと考えている。

○**大分県**⇒連絡協議会入会施設は、ビジネスチャット「ワオトーク」でリアルに繋がっている。色々な団体からの情報をリアルタイムで流し情報共有を図っている。

○**福岡県**⇒事業所における課題に対する取り組みを行うため総会や研修会の企画・立案をする教育・企画委員会やホームページや広報誌などを作成する広報委員会を設置。又県の委託を受けて県内2事業所にコールセンターを設置し、看護ケア技術・処遇困難ケース対応に関する事やステーションの運営に関する事等の事業所の体制を構築するとともにステーションのなどの運営の安定化と質の向上を図っている。

○**熊本県**⇒設置主体が医療機関ではなく営利目的の民間企業からの参入は本県も多い。看護の質より時間を優先している所も多い。質の向上のためにも連絡協議会に入会していただき勉強会や管理者会の交流など行っていきたい。問題のある事業所を排除するのではなく、一緒に向上していきたい。

○**宮崎県**⇒「訪問看護における安全管理について」等現状に応じた研修テーマを設定し講師を招いて研修会を開催している。

意見交換(2)災害時の各県の対応について

①感染流行中の地域活動について

○**沖縄県**⇒コロナ感染症の流行中、宮古・石垣の離島地域では色々な場面で連携することが多かったため、環境整備し集合にて情報交換や患者対応など課題解決を行った。コロナ禍で、精神科患者の対応に苦慮している事業所も多く、地区にこだわらずWEBで情報交換・共有・事例検討を行った

○**鹿児島県**⇒コロナ禍で陽性が多かったのは妊婦さんで、食事が摂れず点滴を希望された方が20名ほどあった。

○**大分県**⇒コロナ禍のホテル療養の現場に訪問看護師がサポートに入った。

○**熊本県**⇒県下ブロック毎に災害を想定して、毎年連絡協議会の災害委員会が中心となり災害シュミレーションを行っている。

情報交換(1)訪問看護オンライン資格確認・オンライン請求の義務化について

次回担当県は鹿児島県の予定